

広域スポーツセンターとの連携による定年退職者を「取り込み」「生かす」
総合型クラブシステムの再構築 - 「企業人」から「地域人」へ

立教大学 松尾ゼミ C

○伊藤裕佑 奥村いづみ 田上悦史

森岡実莉 龍晋太郎

はじめに

これからの日本のスポーツを考える上で、総合型地域スポーツクラブ（以下、「総合型クラブ」とする。）は欠かすことができない。本来、総合型クラブはスポーツ振興や地域の活性化の役割を期待されているが、会員の確保、人材の確保、運営の効率化など多くの課題を抱えている。

また、現在、高齢化社会にどう向き合うのか、日本の大きな課題となっている。なかでも、2007年から団塊世代の一斉退職が始まり、定年退職後のライフスタイルのあり方が問われている。

この2つの課題を解決する支援策を提示することを目的とする。

1. 総合型クラブの現状と課題

- 1) 会員確保：クラブ運営の課題として66,8%が「会員の確保」を挙げている
- 2) 人材確保：マネジャーを配置していないクラブが65%、事務局員を配置していないクラブが45%
- 3) 財源確保：会費収入等が少なく、一定の期間を過ぎると助成金や補助金が打ち切られる

2. 団塊世代の現状と課題

- ・仕事中心であったために、退職後に地域の人々と関係をうまく構築できない場合が多い。
- ・定年退職を迎えるにあたって、経済面や精神面、健康面で不安を抱える場合が多い。
- ・定年を迎えて考えることとして、5割以上の男性が「仕事を続けたい」としている。

3. 総合型クラブの運営とソーシャルビジネス

1) 総合型クラブの運営と広域スポーツセンターをめぐる課題

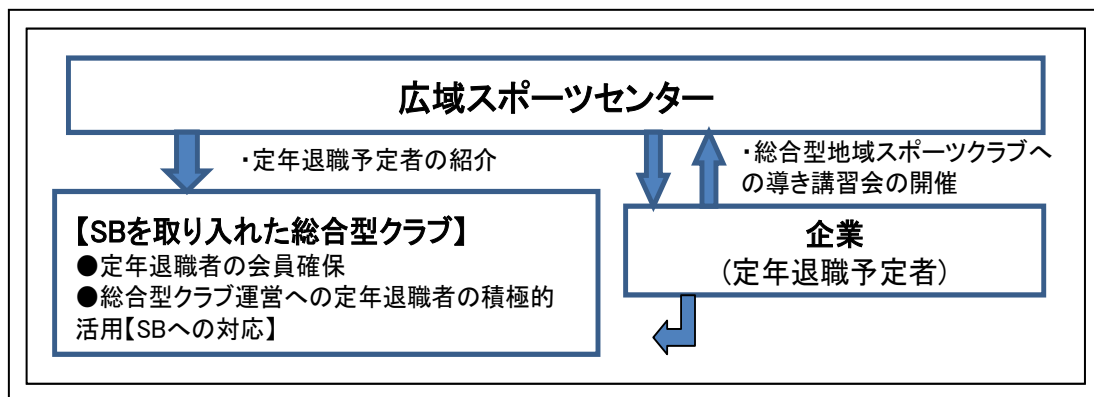
- ・それぞれの総合型クラブが主体となって運営しているが、ボランティアが中心となって運営している現状があり、今後、より効率的、効果的な運営が求められている。
- ・総合型クラブの設立や活動全般を支援する広域スポーツセンターが各都道府県に設置されているが、総合型クラブとの連携とクラブへのさらなる支援が求められている。

2) ソーシャルビジネスの特徴

- ・利益の追求よりも、社会的課題（高齢化問題、環境問題など）の解決を目的とする。
- ・地域住民が主体となって立ち上げるケースも多い。
- ・ビジネスの手法を活用して社会的問題解決のための取り組みを持続的に行える事業である。
→総合型クラブの効果的、効率的な運営においてソーシャルビジネス（以下、「SB」とする。）の考え方が有効である。

4.支援策

<広域スポーツセンターとの連携による定年退職者を「取り込み」「生かす」総合型クラブシステムの再構築>



① 定年退職者を「取り込む」

広域スポーツセンターが仲介役として、定年退職を迎える人々に総合型クラブを紹介する。

② 定年退職者を「生かす」

SBを取り入れた総合型クラブに運営側として積極的に登用する。

※ SBを取り入れた総合型クラブに定年退職者を登用する意義

- ・SBの働き手の条件として、ビジネスのノウハウを持つ人材が必要である。そこで最近まで働いておりビジネスのノウハウが蓄積され、時間的に余裕をもった定年退職者が最適である。
- ・定年後も仕事を続けたいとしている団塊世代の人々の思いをSBで生かせる。

5.期待される効果

- ・総合型クラブの視点から見ると会員、人材、財源の確保につながる。またSBの手法を用いることで効率的、効果的な運営ができる。
- ・団塊世代の人々から見ると、「企業人」から「地域人」へのスムーズな移行の契機となり、企業での培った能力を総合型クラブの運営に生かせる。

<資料・文献>

- ・C.ボルサガ/J.ドフルニ[編] 内山哲朗・石塚秀雄・柳沢敏勝[訳] (2004) 社会的企業—雇用・福祉のEU サードセクター— 日本経済評論社
- ・博報堂 エルダービジネス推進室「HOPE」2011.9/13
http://www.h-hope.net/knowledge/hope_report/index.html
- ・経済産業省 HP 2011.9/13 http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/sbcb/index.html
- ・文部科学省 HP 2011.9/13 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/index.htm